

令和6年度 第5回浄水地域会議 会議録

■ 日時 令和6年9月11日(水) 午後7時 ~ 8時15分

■ 場所 浄水交流館 大会議室

■ 出席者

<委員> 石川 須美子 石崎 里美 勝野 房則
 加藤 耕助 久世 正敏 桑原 正明
 佐竹 修 土田 洋 成瀬 博文
 三浦 律夫

<交流館> 水野 小百合(浄水交流館 館長)

<事務局> 松下 誠(地域支援課 副課長) 田嶋 優俊(地域支援課 担当長)
 伴 悠平(地域支援課 主査)

■ 内容

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 選定した課題の解決策の検討
- 4 連絡事項
(1) 浄水地域における災害対策について
(2) 住民主体の共助交通シンポジウムの開催について

■ 議事内容(要約)

3 選定した課題の精査

前回の地域会議で抽出した課題の解決策について協議を行った。内容は別紙のとおり

4 連絡事項

過去の浄水地域会議における防災対策の取組と住民主体の共助交通シンポジウムの開催について情報提供を行った。

■ 今後の予定

令和6年度第6回浄水地域会議

10月9日(水) 午後7時 ~ 浄水交流館大会議室にて

<協議内容>

- ・浄水地域は自治区間で人口等の差があるため、自治区の地域割の見直しを検討することも必要ではないか。
- ・ある自治区では高齢化が進んでおり、移動に困っている中で、コミュニティーカーシェアリングを検討すべきではという話がでている。
- ・高齢者の方の移動手段の課題を若い世代がどう支えていくかも大事であると思う。
- ・浄水町自治区にある青年会やおやじ会のような任意団体が、他自治区でも作れると地域が活性化すると思う。
- ・浄水中学校のボランティア部のOBが自治区のイベント等の手伝いをしてくれることがあるので、生かせるとよい。
- ・自治区単位ではなくて、中学校区単位で青年会等のような団体を作るのはどうか。
- ・青年会やおやじ会は目的をもって集まりつつ、楽しい会にすれば人が集まるのではないか。
- ・浄水北小学校の北側にある伊保川環境整備の事業を浄水地域内に広めて交流の場にすれば、自治区間の交流、いずれは自治区間での助け合いにもつながるのではないか。
- ・伊保原自治区のマレットゴルフ場なども自治区にこだわらず地域全体の交流の場にする、多世代交流にもつながると思う。
- ・多世代交流も必要だが、まずは同世代が集まって、そのあとに世代間の交流につながっていくと思う。青年会やおやじ会のような楽しい会があれば同世代が集まるのではないか。
- ・(仮称) ボランティアセンターのようなものが地域にあると、何か地域のためにしたい人たちが集まって、地域の担い手の確保につながるのではないか。
- ・SNSの活用によって若者と高齢者がつながれる可能性が広がると思う。